

## 1. 要旨 abstract

Currently, one out of every seven children in Japan is said to be in poverty, indicating that the state of child poverty is serious. Therefore, we conducted a survey on child poverty and found that young people have a low level of awareness of the poverty measures currently in place. We propose ways to break the cycle of poverty and raise awareness of poverty among many people.

## 2. 研究背景/目的・意義

子どもの貧困率は1980年代から増加傾向にあり、1985年に10.9%であった子どもの貧困率は2019年には13.5%となっている。子どもの貧困の要因として「ひとり親世帯の増加」があげられる。ひとり親世帯のなかでも母子世帯は123.2万世帯、父子世帯は18.7万世帯となっており、母子世帯が父子世帯よりも6倍近く多いことが分かった。これによりシングルマザーの貧困率が高いと言われている。シングルマザーに向けた対策の調査を進めていく中で「子ども食堂」に着目した。こども食堂は、子ども向けに無料もしくは安価で食事を提供している場所で地域交流の場でもある。子どもたちのために地域団体が温かみのある場所や、ふれあい、会話できる場所を提供しようという思いから、こども食堂は広がりを見せている。本研究は子ども食堂の活動等を調査し、役立てる効果を明らかにすることを目的とする。

## 3. 研究方法

- (1) インタビュー調査：山鹿子ども食堂『百華』
- (2) 子ども食堂の活動に関する認知度調査(アンケート)

## 4. 結果・考察

- (1) インタビュー調査：山鹿子ども食堂『百華』

<実施概要>

開始日：2016年10月

活動日：毎月第一・第三土曜日

場所：熊本県山鹿市山鹿1139-14

利用者：0歳から高校生までとひとり親のみ

スタッフ：ボランティア

○目的・・・地域の子どもの地域で見守り育てる。

食をとおし、貧困家庭、独食の子どものサポートをする。

不登校、虐待、ストレスなど困難を抱えた子どものサポートをする。

<具体的な活動内容>

- ① 毎月第一・第三土曜日 会食 → お弁当配布(1食100円)



- ② フードパントリー(野菜等)随時



フードパントリー：ひとり親家庭や生活困窮世帯など、様々な理由で日々の食品や日用品の入手が困難な方に対して、企業や団体などからの提供を受け、身近な地域で無料で配付する活動のこと。

## 5. 結論・今後の展望

今回、「子どもの貧困」に関する研究をしてみて、改めて現在の現在の貧困問題の深刻さを感じる事が出来た。調査していく中で「子ども食堂」の活動が子ども印象に残った。インタビューに行って話を伺う中で、自分が思っている以上に子どもたちのことをすごく考えてさまざまな活動をしていられる子ども食堂にとっても感服した。貧困はすべての人がしっかりと考えるべき問題である。しかし子ども食堂での活動について若者の認知度が低いのがアンケートを通して分かったため、今後は子ども食堂に関する宣伝活動を行い、また興味をもってもらえるような活動を考えていきたい。私たちが簡単に解決するのはとても難しいことだが、寄付や募金など身近に出来ることを行い、また広め、貧困の連鎖を断ち切ることが出来る社会に近づけるように取り組んでいきたい。

## 6. 引用文献・参考文献

・日本財団. 子どもの貧困対策 (2022.08.31)

[https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/ending\\_child\\_poverty/#~:text=%E6%97%A5%E6%9C%A%E3%81%A%E5%AD%90%E3%81%A9%E3%82%82%E3%81%A%E3%83%A7%E5%9B%B0%2013.5%E2%93%81%A8%E3%81%A%E3%81%A6%E3%81%A6%E3%81%BF%E3%81%99%E3%80%82](https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/ending_child_poverty/#~:text=%E6%97%A5%E6%9C%A%E3%81%A%E5%AD%90%E3%81%A9%E3%82%82%E3%81%A%E3%83%A7%E5%9B%B0%2013.5%E2%93%81%A8%E3%81%A%E3%81%A6%E3%81%A6%E3%81%BF%E3%81%99%E3%80%82)

・山梨中央銀行. 子どもの貧困について [https://www.yamanashibank.co.jp/fuji\\_note/culture/hinkon-kodomo.html](https://www.yamanashibank.co.jp/fuji_note/culture/hinkon-kodomo.html) (2022.08.31)

・gooddoマガジン編集部. 日本でも増え続ける「子どもの貧困」問題とは？貧困の原因、支援方法は？ [https://gooddo.jp/magazine/poverty/children\\_poverty/73/](https://gooddo.jp/magazine/poverty/children_poverty/73/) (2022.08.31)

・gooddoマガジン編集部. シングルマザー(母子家庭)の貧困率が高い理由とは？子どもの貧困の実状や原因、利用できる支援など [https://gooddo.jp/magazine/poverty/single\\_mother/84/](https://gooddo.jp/magazine/poverty/single_mother/84/) (2022.08.31)

・gooddoマガジン編集部. 子どもの貧困を終わらせたい！ひとり親・シングルマザーを支援する取り組みや活動内容は？ [https://gooddo.jp/magazine/poverty/single\\_mother/64/](https://gooddo.jp/magazine/poverty/single_mother/64/) (2022.08.31)

・gooddoマガジン編集部. こども食堂の現状とは？全国に拡大する中で見えた課題とは [https://gooddo.jp/magazine/poverty/children\\_poverty/children\\_cafeteria/2225/#~:text=%E3%81%93%E3%81%A9%E3%82%82%E9%A3%9F%E5%A0%82%E3%81%A%E3%83%9C%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%A2%E6%B4%BB%E5%8B%95%E3%81%AB%E3%81%AF%E6%A0%E3%81%8B%E3%81%9B%E3%81%BF%E3%81%9B%E3%82%93%E3%80%82](https://gooddo.jp/magazine/poverty/children_poverty/children_cafeteria/2225/#~:text=%E3%81%93%E3%81%A9%E3%82%82%E9%A3%9F%E5%A0%82%E3%81%A%E3%83%9C%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%A2%E6%B4%BB%E5%8B%95%E3%81%AB%E3%81%AF%E6%A0%E3%81%8B%E3%81%9B%E3%81%BF%E3%81%9B%E3%82%93%E3%80%82) (2022.08.31)

・農業協同組合新聞. 「地域みんなの食堂」へ コロナ禍も増え続け6000か所超 こども食堂の実態調査 <https://www.jacom.or.jp/rvtsu/news/2021/12/211223-55826.php> (2022.08.31)

・株式会社インテージリサーチ. 「子ども食堂」の認知度は8割で高止まり？へコロナ禍で注目の「フードパントリー」、認知はこれから～ [https://prtimes.jp/main/html/rd/p/00000513\\_000001551.html](https://prtimes.jp/main/html/rd/p/00000513_000001551.html) (2022.08.31)

- ※フードパントリーは新型コロナウイルスの感染拡大により子ども食堂の活動の休止を余儀なくせられたり、再開できない状況を改善するために始まった活動である。
- ③ 不登校支援(不定期に昼食作りやゲームなど)



※学習支援等も行っている。

- ④ 生活困窮世帯支援(月に1回)



- ※貧困困窮世帯への投資配布は15世帯前後(当月使う分だけ) 様々な企業から食材や日用品を提供・寄付していただいている。

- (2) 子ども食堂の活動に関する認知度調査

今回貧困増加の原因の一つとして若者の認知度が低いことだと考えた。そこで「子ども食堂」「フードパントリー」の認知度を本校生徒(135名)を対象にアンケート調査を行った。

図1: 子ども食堂の認知度

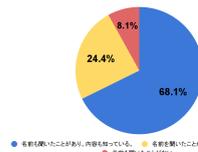


図2: フードパントリーの認知度

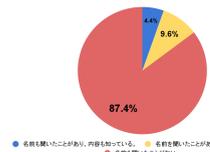


図1より、子ども食堂の認知度を調査したところ「名前も聞いたことがあり、内容も知っている」は68.1%、「名前も聞いたことがあるが、内容は知らない」は24.4%、「名前も聞いたことがない」は8.1%という結果になった。これより半分以上は子ども食堂について認知していることが分かる。

また図2より、フードパントリーの認知度を調査したところ「名前も聞いたことがあり、内容も知っている」は4.4%、「名前も聞いたことがあるが、内容は知らない」は9.6%、「名前も聞いたことがない」は87.4%という結果になった。これより全体のほとんどがフードパントリーについて知らないことが分かった。

フードパントリーは現在のコロナ禍でも安心して利用できる身近な支援活動である。調査の結果、子ども食堂の活動内容をより多くの若者に知ってもらう必要があると考えた。